

出席者（敬称略）

<司会>白井

<参加者>

川島、小島、後藤、住川、高野、前原、松崎、山崎、
山本、矢野、小林、深井、長尾、立花、堀川、吉岡、
八王子東高校生徒3名、聖パウロ学園生徒5名

<事務局>石川、徳永



当日の様子（議事概要）

「Cafe恩方」というコンセプトで、飲み物やクッキー（聖パウロ学園高等学校の生徒の手作り。獣害対策として収穫した放任果樹のゆずを使用）をお供に、恩方について話し合った。

1 トークタイム（概要は別紙のとおり）

子育て、獣害、防災のテーマ毎にテーブルを分け、自由に意見交換した。全員が全テーブルを回ることで、各テーマについてのそれぞれの思いを共有した。

2 シェアタイム

■ 探究授業の提案「八王子市西部集結計画」発表<八王子東高等学校>

高齢者層と若者層の分断を課題とし、世代交流を促すため、若者主体の祭り開催を提案。会場は夕焼け小焼けふれあいの里で、キャンプファイヤーを中心に、大学生が縁日と自然を組み合わせた企画を行うというもの。アクセスや協賛企業確保など費用面の工夫が今後の課題。発表を聞いた参加者からは、「ぜひ実現してほしい」という声があった。

■ 活動告知

- ・ 恩方あそびの広場～みんなで遊ぼうボードゲーム～ 2月11日（水）13:30～15:30@恩方市民センター<川島>
- ・ 高校生によるまちづくり提案発表会 2月11日（水）13:00～16:50@学園都市センター<石川>
- ・ みんなの学習会「認知症当事者の気持ちを知ろう」 2月15日（日）10:00～11:30@デイサービスセンター ときのもり<矢野>
- ・ 知ってトクする講座「在宅療養」について知ろう 2月19日（木）13:30～15:00@恩方市民センター<矢野>
- ・ さくらまつり 3月15日（日）10:00～14:00@小田野中央公園<川島>
- ・ 五感ロック 3月21日（土）@小田野中央公園<川島>

■ 協力者募集

・ 地域の人と出会う観光マップづくり<聖パウロ学園高等学校>

探究授業で恩方地域の観光マップづくりを進めており、マップをもとに地域の方に実際に会いに行ける取組を企画している。五感ロックの会場（3月21日開催）及び陣馬高原下バス停付近（4月下旬予定）にマップとガチャガチャを設置し、ガチャで出た地域の方を訪ねてもらう取組を行う。訪問先として掲載し、来訪者への簡単な特典提供（割引・サービス等）にご協力いただける方を募集している。

・ 恩方の歴史について<住民協議会・白井>

住民協議会で恩方の歴史をまとめていきたいと考えており、歴史に詳しい方や作業を手伝ってくれる方を募集する。詳細は、後日配布する広報誌「ゆうやけの里」をご覧ください。

■ 情報共有

- ・ 林野火災警報等の運用が開始され、1月1日から5月31日までの期間中、警報等が発令されると屋外での裸火が規制される。近々市民センターにもお知らせが届く予定。<川島>
- ・ 警視庁防犯アプリ「デジポリス」は、特殊詐欺防止に有効なアプリ。地域防犯情報も得られるので、ぜひ活用を。<山崎>

■ 市からの報告<事務局・石川>

市が設置する会議体としての地域づくり推進会議は令和8年度末で終了する。こういった情報共有や交流の場は大切なので、恩方地域の方の手で、必要であればどう開催するのかについて、来年1年間でご議論いただきたい。

→<参加者からの意見>

終了時点では恩方地域全体に向けた成果品をまとめるべきではないか。参加しなくなった人もいるので、どう出席を促すか考えないといけない。



子育てグループ

今回は学校の話を中心に、どういう学校が恩方にあるとよいかを意見交換した。特に若い世代が多かったので、こういう学校があったら通いやすいんじゃないかという意見を多くいただいた。

一番多かったのは、自然を活かしたプログラム・体験ができる学校。また、小中学校だけではなく、高校や地域外との交流もあるといいという話があった。

今後はハード面の話も含め、恩方ではこういう学校がいい、こういうプログラムを実現したいという話を進め、ボトムアップで地域から行政にもっていけるようにしたい。話し合っているだけでは進まないの、危機感・スピード感をもって、話ができる場をつくっていききたい。

<感じたこと>

- 子どもの人数が少ないのでサポートが心配
- バスの本数が少なく、登校時間がずれると通いづらい
- 恒常的な子どもの居場所が少ない
- 恩方でしかできない経験ができる学校がほしい（里山、川、森林、食べ物などを活かして）
- コミュニケーションを大切にしたい学校がほしい（グループワークが多い、先生と生徒の距離が近い、全生徒の交流）
- 学校に関する情報をもっとほしい
- もっと具体的な課題等について話し合いたい
- 畑や果物収穫、古民家宿泊、釣りなどの親子向けふるさとツアーをしてはどうか
- 自然を活かした子育てをしたい
- 子育て世代の声を届けたい
- 自然を強みとして移住希望者にPRしてはどうか
- 他地域を巻き込んだ交流や、小中高を超えた交流ができるといい
- 部活動をクラブに移行すれば生徒の流出を妨げるのでは

<感じたこと>

- どのような対策をしているのか初めて知った
- 獣害に関する知識を深める・知ってもらうことが大切（勉強会、被害の見える化・数値化、情報発信・PR）
- 高齢化で対策が難しくなっている
- 収穫しきれない果実を用いて、都会の人に収穫体験してもらい、交流したらどうか
- 実際にこんな被害がある（イノシシに追われた、サルに畑を荒らされた、ノラ猫の繁殖、毛の抜けた病気のタヌキを見かけた）
- 獣害問題をどうプラスに変えていくか検討したい（捕獲した動物の有効活用、動物と人間の共生、捕獲以外の工夫）
- クマの被害が心配、情報が欲しい
- 捉え方に大きな温度差があり難しい問題……

獣害グループ

初めて参加する人も多い中で、獣害とは何か、日頃どのように感じているかを共有できた。

畑を持つ人と野菜を食べるだけの人では獣害の受け止め方が大きく異なり、どう進めていくかは難しいが、個体数が増えている現状から抑制の必要性がある。また、放任果樹の収穫を地域外の人への体験として活用するなど、新たな視点を取り入れたいとの意見が出た。

一方で、獣害に関心はあっても情報が少なく関わり方がわからないとの声があり、情報発信の必要性があげられた。クマの情報が多く出回る中で、正確な情報の取得方法を確立することや、動物と人間の共生についても今後検討していきたい。

さらに、町自連からの案内として、夕焼けビッグハンティングチームが年間を通じて恩方全域で有害獣の捕獲を行うことが共有された。

<感じたこと>

- まずは自助が大切
- 他人事ではなく、自分事として捉える
- 危機感が薄くなっているように感じる
- 伝わりやすい啓発をしないといけない（高齢者でも見やすいハザードマップ、目を通してもらえる工夫、施設・学校・職場などみんなで確認する）
- 恩方は自給できる地域（畑、野草、井戸がある）
- 古民家の活用できれば、いろいろ薪ストーブがあればガスが止まっても大丈夫
- 山の管理はどうなっているのか（保水力、土砂崩れ）
- 被災を想定し、具体的にどんな備えが必要か考えないと
- 助け合いや近所とのコミュニティが大事
- 地域の防災を支えている人も高齢化している
- 大雨と大雪への対策が特に必要

防災グループ

自助の面では、恩方地区の給水ステーションが宝生寺団地にあり、開設状況はアプリで確認できることや、井戸の多くが私有地にあるため非常時の活用が難しい点が共有された。また、防災意識の向上が課題として挙がり、ハザードマップの見やすさや防災情報を分かりやすく発信する必要性が指摘された。さらに、非常食として野草に詳しい住民から知識を共有してほしいという意見も出た。

共助の面では、給水ステーション開設時の交通整理が課題となっていることから、町会自治会連合会との連携強化が必要とされたほか、災害時に井戸をどのように活用するか検討と、地域内の情報共有体制を整備する重要性が再認識された。